

中国に針状化粧品投入

コスメディ製薬、海外で拡販

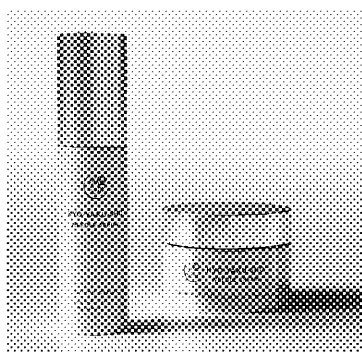
【京都】コスメディ

製薬（京都市南区、権英淑社長）は、化粧品の自社ブランド「京薬粧」を中国で発売した。同社は長さ数百ミクロン（マイクロは100万分の1）の微細な針

を用いて、皮膚から薬剤や有効成分を吸収させる「マイクロニードル」を用いた化粧品ブランドを展開している。海外での販売拡大を進めており、中国進出はその一環。同社海外事業の2026年4

月期売上高は6億円の見込みで、29年同期に約11億円への拡大を目指す。

中国で発売したのは「京薬粧 薬用ニードルスキンケアシリーズ」。タウリンを針状の結晶にし、中にヒアルロン酸や、有効成分「ナイアシンアミド」を内包した。化粧品を塗ると結晶が皮膚内に挿入され、皮膚の水分で溶け、内包成分とともに浸透する。



中国版「京薬粧 薬用ニードルスキンケアシリーズ」

美容液は45ミリで、価格は699円（約1万5000円）。クリームは50gで、599円（約1万3500円）。日本

で販売するものからパッケージや内容量などを中国向けに変えた。

2月の発売に向けそれぞれ2万個ずつ輸出しており、まずは初回輸出分の完売を目指す。

コスメディ製薬は京都薬科大学発ベンチャーで、経皮吸収治療技術に特化した研究開発を手がける。マイクロニードルを応用した化粧品「京薬粧」を24年4月に日本で発売。同年9月に台湾で、25年にロシアで発売した。